

クルアンの逸 (3/4) : かりなく保持 守 された 示

:

明:いかに神の言 が写本としてまとめられたか。

目:[事クルア ンクルア ンの信 性とその保持](#)

より: ア イシャ ステイシ

日10 Jun 2013

集日 11 Jun 2013

“???”??????15?9?

神が人 全体の きとして、その御言 としてクルア ンを下されたとき、神はそれが保持されることを保 しました。それが保持された方法の一つとして、 言者ムハンマドの周 の男女と子供たちが一文字一文字を慎重に暗 したことが げられます。イスラ ム初期においては、暗 に重要性が置かれていましたが、 み きをマスタ した者たちは、クルア ンの言 を入手可能な 々な媒体に き留めることを始めました。彼らは平らな石、 皮、骨、または 物の皮を使用しました。

神の言 が天使ガブリエルを介して 示されると、 言者ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）は 写官を呼び、その都度 き留めさせたと言われています。主要な 写官はザイド ブンサ ビトという人物でした。多くの教友たちは、 言者ムハンマドがこういってザイドを呼んだことを えています。「彼に板とインク瓶、そして肩甲骨を持ってこさせなさい。」[1](#)

言者の生前、クルア ンは写本の形を取っていたのではなく、断片的な 写物の集まりだったのです。

当 、クルア ンがまだ写本の形を取っていなかった理由の一つとしては、それが 序通りに 示されなかったから、というものがあります。各章 は23年 に渡り、初期のムスリム共同体の出来事に即 に するため断 的に 示されることが多かったので。しかしながら

、言者ムハンマドはクルアンの各章の番を していました。天使ガブリエルが神の言 を示したとき、同 に各章 がどこに属するのかも えていたからです。

クルアンは、言者ムハンマドによる直接の 督によって き留められました。言者ムハンマドに最も近かった教友の一人、ウスマ ンはこのように述べています。「言者ムハンマドに何かが 示されたとき、彼は 写官の中から かを呼び、こう言ったものです。

『これらの々を、これこれのことが言及された章に配置させなさい。』

そして1 のみが 示されたとき、彼はこう言いました。

『この をこの章に配置させなさい。』 [2](#)

それゆえ、言者ムハンマドに死が れると、クルアンの断片はムスリム共同体の中の信が置ける者たちによって保管されるようになりました。彼らの一部は、自分たちが学んでいたものの中の数ペ ジ分しか保有していませんでしたが、写官などの一部は 数の章、またその他の一部は一 だけ された 皮や 物の皮を保有していました。

言者ムハンマドの死、ムスリム共同体の指 者として ばれたアブ バクルの 代、大した共同体には内部 争がくすぶるようになりました。言者が れ、言者ムハンマドなくして信仰を保てなかった人々は困惑し、背教したのです。内 や小 模な が勃 し、クルア ンを暗 していた多くの者 が生命を落としました。

アブ バクルはクルア ンが失われてしまうことを恐れたため、クルア ンを一 の本としてまとめることを教友たちの中の 老たちと しました。彼はザイド ブン サ ビトにこの作 を督するよう要 しました。当初、ザイドは 言者ムハンマドが明 に承 しなかったことに取り かることを 躊 しました。しかし、最 的にはクルア ンの断片を 写 暗 の双方から 集し、ムスハフ（写本）としてまとめることに合意しました。言者ムハンマドにまつわる 承 から、ザイド ブン サ ビトによるクルア ンの 纂がどのように行われたのかが分かります。
。 [3](#)

「アル=ヤマ マの人々（ 言者ムサイリマと った 言者の教友たち）が されたとき、アブ バクルは私を召集しました。私が彼のもとを れると、そこにはウマル ブン アル=ハッタ ブが彼と共に座っていました。アブ バクルは、私にこう言いました。『ウマルがこ

ここに来て、クルアーンを暗していた者たちの 犠者の数が多かったことを私に告げた。そして彼は、こう言ったのだ。“私は、もし でより多くの 犠者が出れば、クルアーン の大部分が失われてしまうことを恐れる。したがって、私はあなたがクルアーンを 集することを提案する。”

私はウマルに言った。“神の使徒が行いもしなかったことを、どうして私ができるだろうか？” ウマルは言った。“神に誓って、これは善いことなのだ。” ウマルは、私が彼の提案を受け入れることに して らなかった。そして、ついに神は私の心を め、私はその提案が善いことであると し始めた。』そしてアブ バクルは、（私に）言った。『あなたは 明な若者だから、我々はあなたに疑念を抱いてはいない。あなたは神の使徒のために 示を き留めていた。だから、クルアーン の 写物の断片を探し、それらを一 の本としてまとめるのだ。』」

「神に誓って、もし彼らが私に山を かせと命じたとしても、これ（クルアーン の 纂作 ）より困 ではなくたであろう。私はアブ バクルに言った。『神の使徒が行いもしなかったことを、どうして出来ますでしょうか？』アブ バクルは答えた。『神に誓って、これは善いことなのだ。』アブ バクルは、私がその提案を受け入れることに して らなかった。それでついに神は、アブ バクルとウマルの心を げたように、私の心をも げられた。それゆえ、私はクルアーン の かれたものを探し始め、 椰子の茎、薄く白い石、暗している人々から、それらのすべてを 集したのだ。」

ザイドはクルアーンを全暗 しており、 言者ムハンマドによって最も信 された 写官でした。それゆえに、彼は自らの を りにクルアーン のすべてを き留めることも可能でしたが、彼はその方法だけには りませんでした。彼はクルアーン の 纂において非常に理路整然とした手法を取り、かつ慎重を期して、最低でも 言者ムハンマドの教友の2人からの を得るまでは、一 たりとも き留めたりはしませんでした。

こうしてクルアーンは き留められ、本の形としてまとめられました。それはアブ バクルのもとに彼の死まで保管され、その ウマルブン アル=ハッタ ブのもとに渡り、ウマルの死 は彼の娘であるハフサのもとに渡りました。ムスリム国家の3代目指 者であるウスマンの 代になると、クルアーン の写本であるムスハフが 化されるようになりました。ク

ルア ンはそれまで行われていたような、アラビア の 数の方言によって されなくなった
のです。第4部では、ウスマ ン版のムスハフがいかにもたらされたかについて述べ
られます。

Footnotes:

1 サヒ フ ブハ リ

2 アブ ダ ウ ド

3 サヒ フ ブハ リ

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/2691>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。